

広報誌で見る恵庭消防の歩み 4

1990～1999(平成2～11)年

平成2(1990)年1月



竹内 諭さん(35歳)
恵庭市消防本部

火の用心で楽しいお正月を

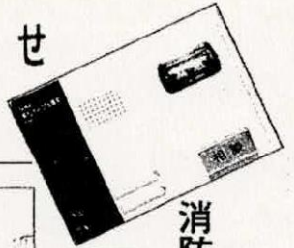
昨年は4名、1チームの高所人命救助の技術競技で全道代表に選ばれ、8月に行なわれた全国消防救助技術大会に出場できるなど、とても有益な一年でした。

昨年一年間を振り返ると、やはり、交通事故に伴う車両火災が多く、救助工作車を使用する

ケースも増加した年でした。ですから、交通事故には十分注意をしてほしいですね。また、冬場は火を使うことが多い季節、火の元には細心の注意を払って、楽しいお正月を過ごしてほしいです。市民の皆さんが安心して暮らせる街づくりを目指して、今年も頑張ります。

消防本部 竹内 諭

お知らせ



消防と家庭を結ぶホットライン

緊急通報システム



人生80年時代。そして恵
 市も本格的な高齢化社会を迎
 えています。
 市では、お年寄りの方々が
 安心して暮らせるように、昨
 年4月から、緊急通報システ
 ムを導入しています。
 今月号では、そのシステム
 や装置の概要についてお知ら
 せします。

命のオンライン

緊急通報システムは、家庭の
 電話回線を利用して、家庭と消
 防を結ぶ命のオンラインです。
 緊急の場合、緊急ボタンやコ
 ードの付いたナースコールボタ
 ン、首から下げ、持ち運びでき
 るペンダントボタンを押すと、
 自動的に消防の緊急通報センタ
 ーに通報が入り、寝たままでも
 話ができます。また、応答がな
 い時は、消防のコンピューター
 が通報者の氏名、住所を識別し
 てすぐに救急車が駆けつけるシ
 ステムになっています。

ご利用できる方

緊急通報システムは、どなた

でもご利用できますが、1人暮
 らしの65歳以上の方で、所得税
 がからない方は、無料で設置
 することができます。

また、65歳以上の方で所得税
 が課税されている方は、税額に
 応じて、設置費用を負担してい
 いただきます。

なお、これら以外の方は、約
 6万6千円程度の費用がかかり
 ます。

火災にも一役

緊急通報システムには、火災
 感知機が設備されています。

万一の火災の場合、火災警報
 が消防に入り、消防車が駆けつ
 けてくれます。

■お申し込みは：
 市福祉事務所福祉課
 ☎33-3131内132へ



▶トイレで急に気分が悪くなり、首に下げたペンダントボタンを押します。



▶部屋に設置してある緊急通報装置から「ボタンが押されました」との音声が届きます。



▶消防から「こちらは緊急通報センター。〇〇さん、聞こえたら応答願います」と問いかけてきます。



▶通報された方は、気分が悪くて返事ができません。



▶応答がないので、容体が急を要すると判断し、センターの通報で救急車が自宅へ向かいます。

平成 5(1993)年 4 月

安全と安心は心の支え 和光町に消防出張所を建設

■消防・交通安全の推進

市民の皆さんの尊い生命と貴重な財産を守る上で、市の消防体制や交通安全対策の充実を図ることも重要な課題の一つです。

今年、老朽化している消防ポンプ車の更新や市街地の拡大による消防体制の強化を図るため、漁川右岸地区(和光町)に建設する消防出張所の実施設計を行います。建物の完成は平成6年とさせていただきます。また、救急体制については、救急

車に備える救急器材の整備を図ります。

一方、市民の皆さんや関係団体、行政が一体となって取り組んできた交通安全運動の結果、交通事故死亡者は減少傾向にあります。さらに、交通安全施設の整備や幼児・町内会単位による安全教室、老人クラブ交通安全推進委員による研修会など様々な機会を通して交通安全の普及啓蒙を図ります。また、駅周辺の駐車及び駐輪対策として、恵庭駅西口の自転車駐輪場、島松駅前駐車場の暫定整備を実施する計画です。

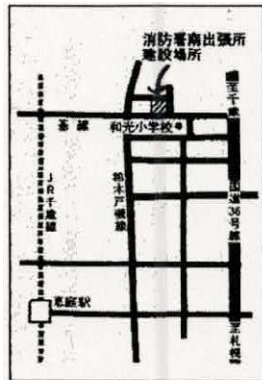
平成 6(1994)年 4 月

安全と安心を支える 消防出張所を建設

●消防出張所建設事業

市民の皆さんの尊い生命と貴重な財産を守る消防体制の強化を図るため、和光町に消防署出張所を建設します。

鉄筋コンクリート一階建、五百四十平方メートルの建物には、消防車と広報車を配備。二十四時間体制で防火指導と初期消火にあたります。

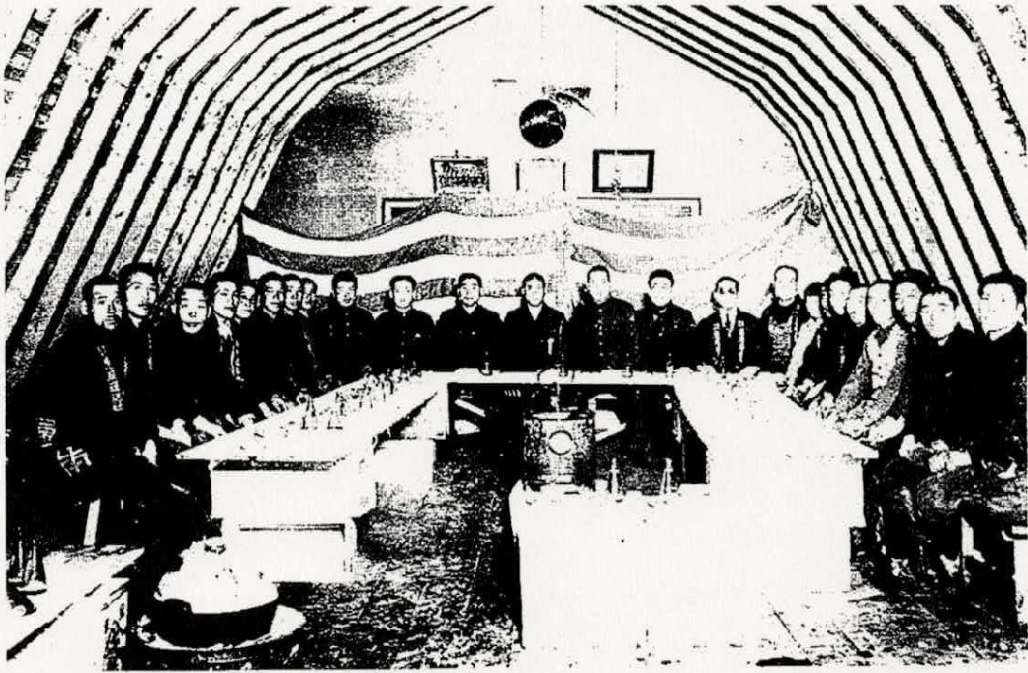


平成 6(1994)年 5 月



一日消防長が防火PRにひと役

春の全道火災予防運動初日の4月20日、市内の主婦、内倉真由美さんが一日消防長に。はしご車の体験搭乗などの後、市内のデパートで防火運動をPRしました。



駅前消防番屋の落成祝賀会

この写真は、以前、相生町内にあった消防の番屋の落成式のときのものです。昭和12、3年当時に写したもので、私の義父、津川甚太郎が写っています（左から3人目）。番屋があった場所は駅前通りに面した現在の豊栄ビルの建っているところで、2階建の牛舎のような格好をした建物でした。1階は手押ポンプの消防車が置いてあり、2階は町内会の会合に使われていました。私の家は戦前から駅前で商店を営んでいたせいか、父は町内で何か行事があると、いろんところで顔を出していたようです。駅前も随分変わりました。福本商店、椎名米穀店、中川鮮魚店など、店も結構ありました。また、昭和25年頃、米軍が駐留した時には、飲み屋も多く、駅前の様相も一変した時もありました。60年間、この駅前を見つけて、時の流れの早さを感じている今日このごろです。



津川富子さん(64歳)

相生町在住

平成7(1995)年4月

消防署

南出張所が完成しました

4月2日から業務開始



市内一番目の消防出張所「南出張所」が、四月二日から業務を開始します。同時に、第一分団も本署から同出張所に配置替えとなります。

火災が発生した場合、一分一秒でも早く現場に到着し、消火の初期活動を行うことが重要です。しかし、縁町、相生町から南の地域では、火災が発生した場合も、消防署（有明町）からの出動となるため、この初期活動が他の地区よりも遅れていました。

この初期活動の遅れを解消するため、昨年度、和光町に新しい出張所の建設を行い、約一千平方メートルの敷地に、鉄筋コンクリート造り平家建て（一部二階）約五百四十平方メートルの建物

が、このほど完成しました。『南出張所』は、所長以下十一名の二

十四時間体制で初期消火、防災活動にあたります。配備される車両は、消防ポンプ車、広報車、第一分団車が各一台ずつです。庁舎設備の特徴としては、出動の際に庁舎内が無入になつてしまうため、庁舎管理システムを設け、ボタン一つで施錠ができるようにしています。また、外部から人が侵入したときも、システムが作動し、消防本部にすぐ異常を知らせます。職員の仮眠室も個室化され、職場環境の整備にも配慮がされています。

高層建築物の増加や生活環境の変化などから今後ますます、多種多様な災害が予測されます。その災害から、市民の皆さんの生命と財産を守る消防体制の強化のため、この施設は整備されました。



人材確保のため 消防団活動のPRを



恵庭消防団第1分団長
中村 進さん
(59歳・新町)

現在、第一分団員は18人です。みんな地域の安全を守る使命感に満ちた人たちばかりです。いざ、出動要請が出ると、市民の命と財産を守るため、消防署員と協力しながら、団員一丸となって消火活動にあたります。ただ、ここ数年、若者の入団がなく、後継者不足が悩みの種です。今後、人材確保のためにも、消防団の活動などのPRが重要だと思っています。



消防署からのお知らせ

■概要

所在地 和光町601番地
電話 34-9111
敷地 2,000㎡
建物 鉄筋コンクリート造、平家建一部二階、540㎡
事業費 2億9,400万円

■配置車両・人員

人員 所長以下11人
車両 水槽付消防ポンプ自動車 1台
広報車 1台
小型ポンプ車 1台

■担当区域

緑町、住吉町、相生町、駒場町、和光町、恵南、戸磯、黄金町の一部

■南出張所では、四月二日正午よりサイレんが鳴ります。

■救急出動件数が大幅に増えています。救急出動件数が、六年度は八百八十七件と、前年度よりも百十九件も増加しました。しかし、四十六%が入院の必要のない軽症の方でした。

現在、市には二台の救急車が配置されていますが、同じ時間帯に二台が出動することも増えつつあります。また、二台とも出動してしまつた後に、出動要請がかつたことも、四件ありました。本当に必要としている方が、利用できず、手遅れになることも十分考えられます。そのような事態が起こらないよう、安易に利用することは控えてください。

■応急手当での講習会を開催します。救急車が現場に到着するまで、平均何分かかかるか知っていますか。答えは、五分三十秒です。

人間は、心臓停止の時間が四分間続くと蘇生する率は五十%、八分では0%になると言われています。ですから、救急車が到着しても、心臓が停止して

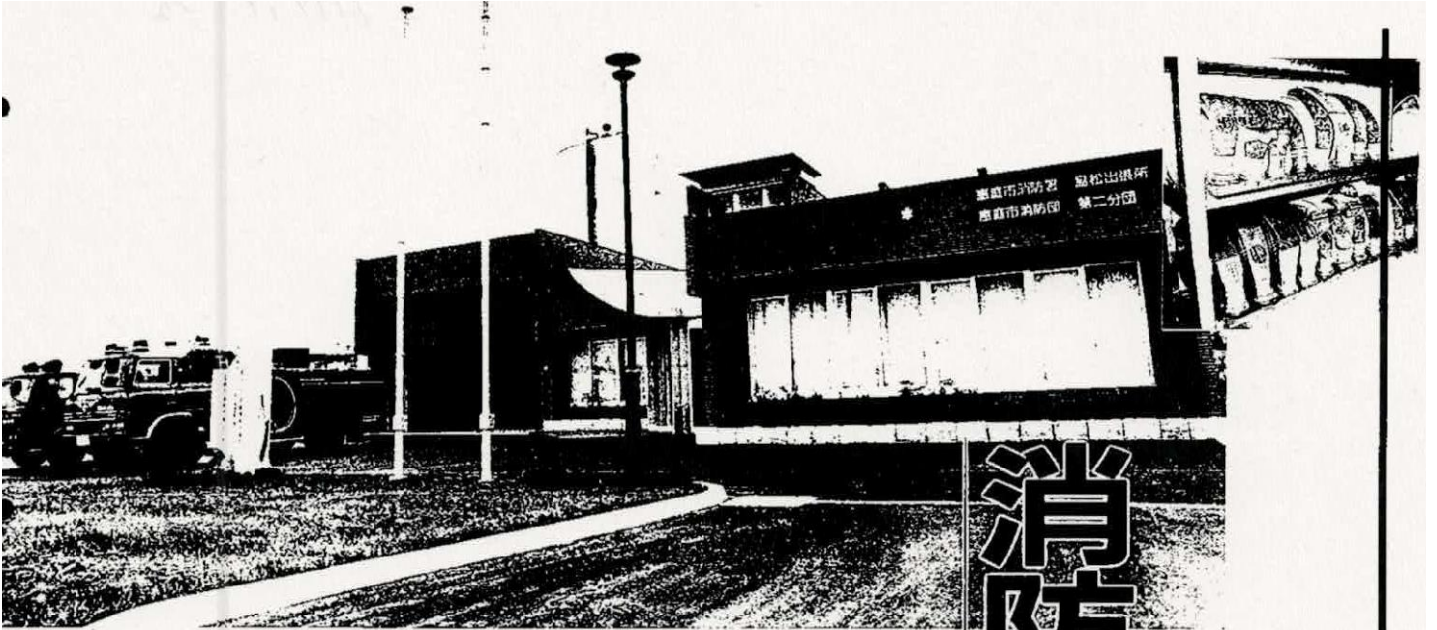
いた場合は、蘇生が難しくなります。そこで、到着までの間の市民の方の応急手当が、重要になります。

消防署では、応急手当の方法の普及に向けて、職員二十七名を指導員として、地域で講習会を開催しています。ご希望の団体などの方は、消防本部(☎33-5191)へご連絡ください。

■春は火災の増える季節です。火事を起こさないために次の点に注意してください。

- ①寝たばこやたばこの投げ捨てをしない。
- ②子供には、マッチやライターで遊ばせない。
- ③風の強いときは、たき火をしない。
- ④天ぷらを揚げるときは、その場を離れない。
- ⑤家のまわりに燃えやすい物を置かない。
- ⑥ふろの空だきをしない。
- ⑦ストーブには、燃えやすい物を近づけない。



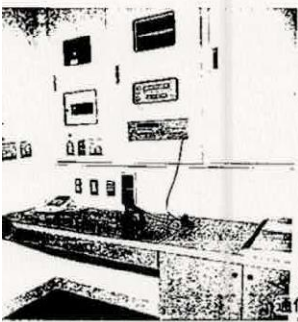


消防署島松出張所が

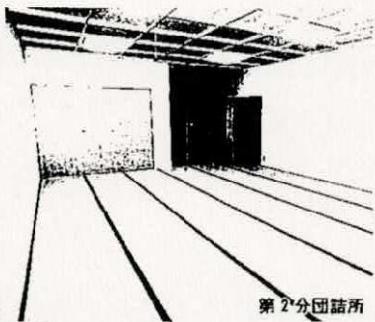
移転し業務を開始しました

これまで島松東町にあった消防署島松出張所は、建築後二十三年が経過。このため建物の傷みがひどく、また人口や中高層建物の増加に対応し、機械・人員を増強してきましたことにより、施設が手狭になっていました。これらを解消するため、平成八年度から新出張所の建設を始め、このほど完成。そして八月二十五日に移転し、業務を開始しました。

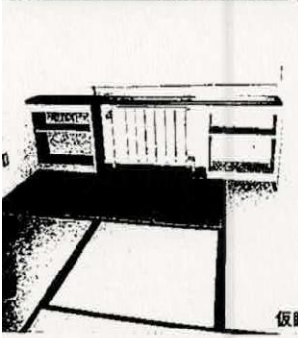
新しい建物のイメージは、地域に密着した消防署です。玄関のひさは、手をかざし街並みを見守るようなデザイン。火のみやぐらのように高さのあるホース乾燥塔とともに、地域住民の安全確保を表現しています。また、施



通信室



第2分団詰所



仮眠室





設の特徴としては、災害時に防災拠点となりうるよう、機能的で耐震性も高い設計としました。そして、以前は災害出勤などにより不在のとき、来庁者にご迷惑をおかけしましたが、このような場合に備え、直接消防本部通信室に連絡できる、庁舎管理システムを玄関前に設置。また、職員の仮眠室も各室ごとに隔壁を設けるなど、職場環境の整備にも配慮がなされています。

この新島松出張所には、水槽付き消防ポンプ自動車、消防ポンプ自動車、広報車を配置。職員は所長以下十一人。この体制で二十四時間、地域の防災管理に努めます。

消防署島松出張所概要



電話番号 236-8439
 敷地面積 2,000㎡
 建物規模 RC造平屋一部2階建 540.891㎡
 総事業費 353,044千円
 配置人員 所長以下11人体制
 配置車両 ・水槽付き消防ポンプ自動車・広報車
 ・消防ポンプ車(第2分団車) 各1台
 担当地区 島松市街地全域、中島松、南島松、西島松、
 下島松、北島、穂栄、恵み野東、恵み野北

平成 10(1998)年 7 月



本誌 ENIWA

1998.7



【今月の話題】

黄金社地区画整理で保留地の分譲開始

【マイタウンえにわ】

●この人に会いたい

恵庭在住の漫画家! 備水さん

○旬のひと

プロのピアニストと共演した原田さん

○伝言てるTEL ほか

【特集】

恵庭救急24時



遠くに救急車のサイレンが鳴り響く。

また、事故でもあったのだろうか。夫は今日も、早朝からいつもの工事現場に向かった。それに今時は、ちよとどわが子の下校時間だ。妻の胸に一瞬不安がよぎり、「まさか」という思いがそれを打ち消す。だが、かすかな不安は胸の奥底にくすぶり続けたままだ。やがて帰宅したわが子と夫の姿を見てやっと不安の火種は消える。

しかし、救急車のサイレンを耳にするたび

に、その火種はまたくすぶり始める。

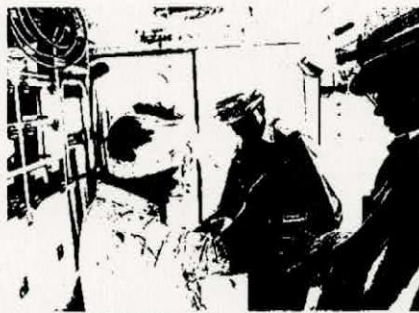
それも、そのはずだ。

平成九年一年間の恵庭消防からの救急車出動件数は、ついに一、〇〇〇件を突破した。

一日に二・七五回。毎日二〜三回出動した計算だ。救急の現場は、その当事者しか目にする事ができない。今月は、二十四時間恵庭消防に密着取材し、救急の現場で一体どのようなことが行われているのか、消防の現場も合わせてレポートする。

特集

恵庭救急24時



▲ケガ人を救急車内に収容。出血がひどい。事故の状況を本人に確認し、それに基づいてすぐさま処置に移る。



▲恵庭消防通信室。市内からの火災通報、救急要請は、すべてここに入る。



▲救急車内での応急処置。けがの状況、血圧などを測定し、すべて通信室に報告する。

◀病院での手当てが始まる。それを確認して救急隊は帰路につく。

特集

恵庭救急24時

出動

午後一時十八分、消防本部一階通信室の電話が鳴る。
「恵庭消防です。火事ですか、救急ですか」

塗装作業中の作業員が足場から転落し、頭部からの出血が止まらないという女性からの救急出動要請。通信室の指令員は、すぐさま救急出動指令予告音スイッチを押す。救急は分秒を争う。この予告音は、通信室の状況確認と並行し、救急隊が出動体制を整えるために発信される。ちょうどこのとき、救急隊は救急訓練の準備をしていた。救急隊は、隊長、救急員、機関員の一隊三人で編成される。予告音と同時に、三人の救急隊員はすぐさま訓練を中止。救急車に乗り込み出動体制を整えて通信室からの指令を待つ。その間、通信室では住所、氏名そして意識の有無などの確認を続ける。

「救急指令、福住町〇丁目〇番地、〇〇宅、労災！」

「恵庭救急から恵庭消防、出動！」
通信室からの指令に、すぐさま救急隊は救急サイレンを鳴らし、現場に向けて出動する。午後一時十九分。出動まで、一分。

現場に向かう救急車の中で、隊長は無線を通じて通信室との交信を続ける。けが人の状況などを詳しく確認し、救急員にそれに応じた資器材の準備を逐

次指示する。運転は機関員が行う。救急サイレンを鳴らしても、中には停止しない車もある。スピーカーで車を制止し、安全を確認しながら先を急ぐ。

現場

福住町の現場に到着したのは、午後一時二十一分。傷病者は後頭部からの出血はひどいが、幸い意識はしっかりし、歩くこともできた。救急車内に収容し、減圧ガーゼで傷口を押しさえるが、すぐに血で真っ赤になる。何度もそれを繰り返し、止血するために、三角巾を強く締めて圧迫する。傷病者は頭部を打っているため、それだけでは安心できない。並行して、頸部や他の部分のけがの状況、呼吸、瞳孔観察、血圧測定などが三人の隊員によって手際よく行われ、同時にそれを、逐一通信室に報告する。これらの作業を進めながら、隊長は本人にけがの状況を詳しく説明し、けがに応じた病院を決め、本人に同意を求める。本人の了解後、今度は無線で通信室に連絡する。それを受けた通信室は、病院に対して収容が可能かどうかを確認。それを救急隊に連絡し、同時に、病院に対して救急隊から送られたけが人の状況を連絡する。救急隊はただちに病院に向かった。

この日は、福住町から最も近い恵庭第一病院だ。到着は午後二十九分。病院の裏側にある救急入口では、すでに医



▲実戦さながらの緊張感が走る。隊員の背中には、人工呼吸器などの資器材。かなりの重量だ。



▲3人の隊員がいかに呼吸を合わせて、運搬プレーを行うかが、救急救命のかがを握る。だから、訓練に終わりは無い。

▲心臓停止状態にある人への救急救命処置は、医師の指示に基づく。現場で心電図などが医師に電送され、医師は無線で指示を出す。救急隊員には、いかに的確に医師の指示どおりに処置できるかが要求される。

中断していた訓練が始まろうとしている。今回は、心肺機能停止状態にある人を想定した訓練だ。

青いビニールシートに、ガムテープで部屋や通路が決められている。広いスペースがあれば、もちろん処置はしやすい。しかし実際には部屋も通路も狭く、そうした悪条件を想定してのこ

「出動のたびに、清掃するのですか」

「はい。特に今回は、さっきの傷病者の血痕が残っているでしょ。血液はB型肝炎やHIV（エイズ）の危険性もあります。われわれ隊員もそうですが、次の傷病者に万が一それが感染したら大変ですからね。毎回、すべて清掃して消毒して置くんですよ」

「青いビニールシートに、ガムテープで部屋や通路が決められている。広いスペースがあれば、もちろん処置はしやすい。しかし実際には部屋も通路も狭く、そうした悪条件を想定してのこ

消防署に戻ると、さきほど準備していた訓練資器材がそのまま残っていた。到着するなり、隊長は事務所に戻り報告書の作成を開始、他の隊員一人は救急車の清掃と救急資器材の補充を始める。

訓練

消防署に到着、午後一時三十八分。

師と看護婦数人が待機していた。救急車からストレッチャー（車付の担架）に乗せた人が降ろし、入口のすぐそばにある治療室に運んで、ベッドに移し替える。けが人をうつぶせに寝かせ、医師の治療が開始された。それを確認し、救急隊は帰路につく。

とだ。部屋に想定したスペースに、タミー人形が一体置かれている。三人の隊員は、救急車に乗り込み、到着したところから訓練が始まる。隊長と救急員の二人は、すぐにビニールシートで想定した玄関に向かう。

「失礼します」靴を脱ぎながら、架空の家人に話しかける。

その間、機関員はストレッチャーを救急車から降ろし、家の前に準備。遅れて家の中に入る。

「意識確認呼び掛け反応！」

「もしもし、もしもし！……呼び掛け反応なし」

「痛み刺激反応！」

「反応なし」

「口腔内確認！」

「口腔内に異物あり」

「異物吸引！」

「口腔内再確認！」

このようにして、実戦さながらの訓練が続く。呼吸観察、心臓マッサージ、そして医師との連携の中で行われる救急救命処置として、『除細動（心臓のけいれんに対し、電気ショックを与える処置）』、『輸液（静脈路を確保するための点滴処置）』、『気道確保（器具を使って強制的に酸素を送り込む処置）』の訓練が続く。隊長は、架空の医師と無線で交信しながら、隊員たちに指示を出す。隊員の額から汗が流れる。そうやって四十分ほどで訓練が一通り終了した。一刻を争う救急救

その間、機関員はストレッチャーを救急車から降ろし、家の前に準備。遅れて家の中に入る。

「意識確認呼び掛け反応！」

「もしもし、もしもし！……呼び掛け反応なし」

「痛み刺激反応！」

「反応なし」

「口腔内確認！」

「口腔内に異物あり」

「異物吸引！」

「口腔内再確認！」

このようにして、実戦さながらの訓練が続く。呼吸観察、心臓マッサージ、そして医師との連携の中で行われる救急救命処置として、『除細動（心臓のけいれんに対し、電気ショックを与える処置）』、『輸液（静脈路を確保するための点滴処置）』、『気道確保（器具を使って強制的に酸素を送り込む処置）』の訓練が続く。隊長は、架空の医師と無線で交信しながら、隊員たちに指示を出す。隊員の額から汗が流れる。そうやって四十分ほどで訓練が一通り終了した。一刻を争う救急救

命では、処置を行う隊員の連携をいかに図るかがかぎとなる。三人の呼吸がそろわなければ、それだけ時間にロスが生じる。隊員たちは汗をよきながらこの訓練を振り返り、それぞれ反省点を出し合う。

「よし。じゃ、今のを頭に入れて、もう一度始めからやってみよう」
再び、訓練が始まった。

救急救命

救急救隊ができる心肺機能停止状態にある人への救急処置は、平成三年になるまで、心臓マッサージ程度までしか法律的に認められていなかった。しかし、心肺機能停止状態は一刻を争う。

救急の現場で、もつと踏み込んだ救急処置がなかったために手遅れになるケースも多く、日本は医療では世界的にもトップクラスなのに、救急水準の低さが指摘されていた。やっと平成三年四月に救急救命士法が制定され、医師との連携のもとでという条件付きで「救急救命処置」が可能となった。

しかし、そうした処置を行うためには、それを可能にする資器材と、それらを的確に使って処置ができる救急救命士が必要になる。

この一月、それらの資器材を積載した救急車が患庭消防に入った。「高規格救急自動車」という。人工呼吸器、半自動式除細動器、輸液ポンプ、心電

図伝送装置など多くの資器材が、車内で処置しやすいように配置されている。救急救隊員は数々の訓練や、病院実習を積み、四月からこの高規格救急車の運用を開始した。

現在、患庭消防には四人の救急救命士がいる。そして、来春の資格取得を目指して、もう一人が勉強中だ。難しいこの試験を、来春受験しようとしている彼は、私たちが消防署に詰めた二十四時間のうち、ほんの少しの時間を見つけては参考書を開き、仮眠時間を過ぎては深くまで読みふけていた。

夜勤

消防署では、救急、消防、通信室が二十四時間勤務となる。夜間は通常二十五人体制で行われる。夕食を済ませ、それぞれの持ち場に待機している。救急隊は、私たちの取材に対応。一方、消防隊は全道救助訓練指導会を七月十六日にひかえ、この日、日中は屋外の訓練塔で訓練をしていたが、夕食後は消防署内の講堂で訓練を再開している。小隊長が、こっそり私たちを呼び寄せ、耳打ちした。

「今夜、八時から消防訓練をしますから、もし取材するなら準備しておいてください。このことは、通信室と私以外は知りませんから」

「夜間も訓練するんですか」
「夜間は、暗闇の中の消火や救助活



夜間訓練を指導する小隊長

動になります。日中にはない制約がたくさんあるんですよ。いろいろな条件で訓練されていて、本番に備える必要がありますからね」
「いつも抜き打ちですか」と小声で尋ねる。

「もちろん。火事に予告はありませんからね」という返事。

午後七時五十六分、通信室からの指令。恵み野中央公園で火花が出ているという通報があったためだ。万全を期して消防隊と救急救隊の双方が出動した。現場は遊具の中で何かを燃やした形跡はあったが、大事には至らないものだった。だれかが火遊びをしたものらしい。公園内であることから、広範囲に周囲を確認し引き上げた。

抜き打ちの夜間訓練は、午後九時から始まった。消防庁倉前で行われたこの訓練は約三十分間行われた。

午後十時から仮眠の時間になる。しかし、それぞれ救助訓練、打ち合わせ、勉強が続く。仮眠は夜間の出勤に備えて、脱ぐのは上着だけ。ズボンも靴下も履いたままだ。

通信室には、二人が勤務しなければならぬ。これは二時間交代で行われる。したがって夜間の二時間は、仮眠中でも必ず起きなければならぬ。

十二時近くになって、私たちが隊員と同様に仮眠についた。服を着ているから体が休まらない。通信室への交替の出入りが耳につく。

任務

行政の基本は、市民の生命と財産を守ることだ。中でも消防は、直接的にそれにかかわる。

消防課長に話を聞いた。

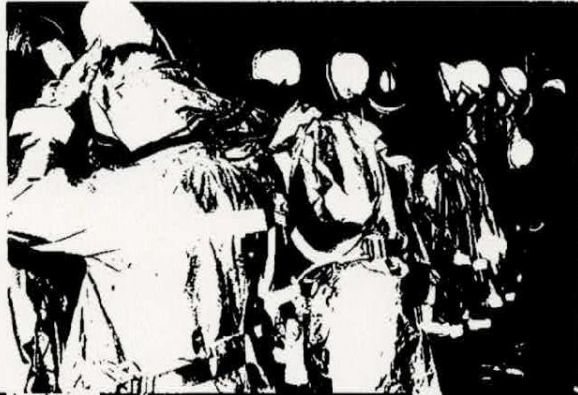
「いざというときに、短時間で的確な処理を行う、これが消防、救急の基本です。だから現場での、冷静で的確な判断力が要求される。私たちは、それをやって『当たり前』なんです。だから訓練する。しかし、訓練はあくまでも訓練でしかない。実際とは、現場も緊張感も全く違う。実際の場合、それぞれケースが違うし、失敗は許されないわけですから。現場の経験を積むということもありますが、実際の火事なんて、そうたくさんあつては困ります。だから、いろいろなケースを想定して、何度も何度も訓練を積んで、それを実践につなげていくんです。

例えば、昨年の出火件数は三六件です。この三六件のために、私たちは三六五日この業務に従事していると思う人もいるかも知れません。でも、違うんです。もちろん、火事になったら出勤する。そのための訓練も欠かさない。防火水槽、消火栓、車両の点検や整備も万全にする。しかしその前に、私たちにほもう一つ大きな仕事がある。

「予防」することなんです。だから私たちは、学校、工場、事業所などの予防査察、高齢者世帯の住宅防火診断や



◀静まりかえった、夜の消防署車庫。左側の壁に、消防服とヘルメット、右側に消防車、救急車が待機している。この静けさが、今夜もこのまま続いてほしいと思わずにられない。



◀午後7時58分、出動。静けさは、すぐにうち破られる。急いで消防服を着て、消防車に乗り込む。



▲午後10時を回る。消防隊は、消火・救助活動の方法を訓練に基づいて再確認。



▲夜間消防訓練。夜間の消火活動には、昼間にはない障害がある。足元すら見えない中、それでも隊員たちは素早く消火活動を行わなければならない。訓練を指揮する小隊長の「げき」が飛ぶ。



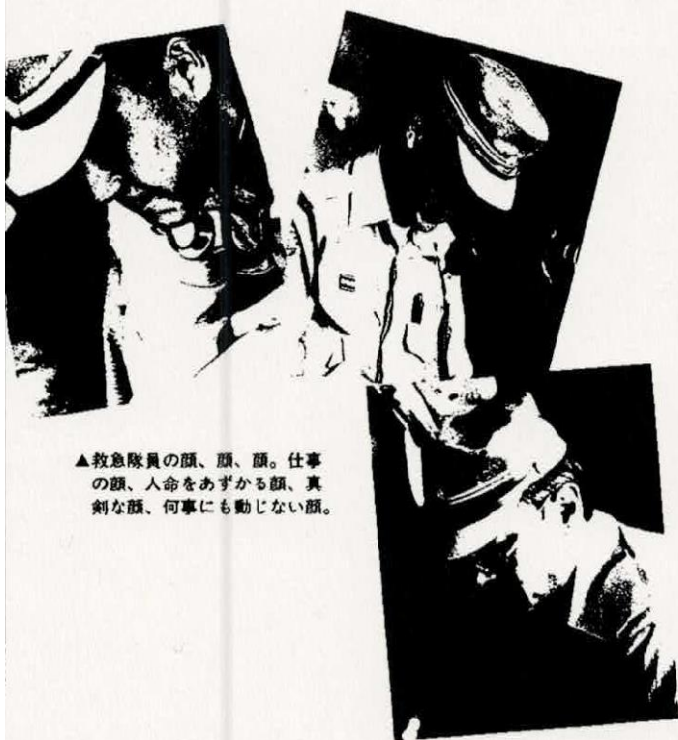
◀この4月から運用が始まった高規格救急車。心肺機能停止状態の人にも対応できる資器材が積載されている。ちなみに、1台3,800万円。



◀高規格救急車のマーク。このデザインのギザギザ模様は、心電図を象徴していて、奥の方は、心肺機能停止状態の波形。これが、市の鳥カワセミマークの救急隊の処置によって、右側の正常な心臓の動きに回復してほしい。このマークには、そんな隊員たちの願いが込められている。

特集

恵庭救急24時



▲救急隊員の顔、顔、顔。仕事の顔、人命をあずかる顔、真剣な顔、何事にも動じない顔。

特集

恵庭救急24時

救急救命医療に携わる医師から一言

私がここに赴任した昭和61年に、恵庭の救急救命から救急医療を学びたいという申し出がありました。私もずっと救急医療に携わってきて、救急の果たす役割を重視しておりましたので喜んでお引き受けしたわけです。その時から年2回、解剖生理学、病態、処置などの講習を行って、それは今でも続いています。当時はまだ、救急救命士の動きは全くないし、救急はいわば患者を搬送するだけの役割しか担うことができなかった時代でした。でも、実際の現場で救急隊員は人の生死にかかわるわけですから、なんとかして助けたいと思うのは当然です。今は、これまでばらばらだった市内の救急告示3病院と救急隊との関係も一本化され、救急と病院の連携は非常に良好です。

問題は、救急隊が到着するまでの間、家族などが心肺蘇生法を行えるかどうかです。身内にも起こり得ること、救急隊が到着するまでの数分が生死を分ける、そうお考えください。一般の人が行える基本的な蘇生法ですから、講習会や救急の日などに参加して、ぜひ身につけてほしいものです。

市民の方も、ぜひ救命法を身につけてほしいですね

恵庭第一病院脳神経外科医師

佐藤 純人



救急救命講習会などを、機会あるごとに行って防火に力を入れるわけです。ほんとうは、二六五日消防車が車庫にいて、これが理想なんです。救急車も全く同じです」

連携

救急救命処置は、医師の指示に基づく。このため救急隊と病院との連携が不可欠だ。昨年五月から、恵庭消防と医師会は相互の連携を行う際の問題点などを検討し、この三月に覚書を交わしている。現在、救急告示病院は、恵庭第一病院、えにお病院、恵み野病院の三病院。昨年十月からは、救急救命士を中心に、救急隊員がこの三病院で研修を行い、通信や救急救命処置の訓練を重ねてきた。さらに三月からは、救急告示三病院と恵庭消防との間で「恵庭市救急高度化会議」ができ、相互連携、救急業務の指導助言、救急隊員の訓練などが定期的に行われることになった。このように、恵庭での、病院と救急隊の連携は非常に密になっている。

救命曲線

しかし、まだ不足しているものがあると、救急隊員は口をそろえて言う。「ドリンカーの救命曲線」。これは、呼吸が停止した場合（呼吸停止の数分後には心臓も停止する）の、蘇生処置

の開始時間と救命率の関係を示したものだ。これによれば、呼吸停止二分後に蘇生処置を行った時の救命率は九〇％、三分後七五％、四分後五〇％、五分後二五％、そして一〇分後はほとんど〇％と救命率が低下する。

救急車が通報を受けて現場に到着するまでの平均時間は、五〜六分と言われている。つまり、救急車が到着した段階で、救命率は「二五」ということだ。助かる確率は四分の一しかない。そこで必要なのが、家庭での蘇生処置なのだという。欧米では、学校などでも人工呼吸などの蘇生処置法が徹底され、多くの民間人がそれを会得しているという。実際、民間人が行う蘇生処置が功を奏したというケースが、かなりの頻度であるという。

「私たちが到着するには、どんなに急いでも数分の時間がかかります。その間、蘇生処置が行われるかどうか、それが蘇生のかぎを握っている。呼吸停止二分後の処置では、救命率は九〇％もあるのですからね。確かに救急隊と病院との連携はできました。しかし、現場での処置がない。救急救命は、現場の市民と救急隊と病院、この三者の連携プレーがあって初めて機能することを、ぜひ、市民のみならずにもご理解いただきたいんです。

昨年消防では、学校、工場、事業所などを対象に、二四回の救急救命講習会を行い、一、一五〇人が受講して

確か、今年の5月24日の午後9時ごろだったと思います。中島町の友人のお宅に、子供を連れて遊びに行っていて、そろそろ帰ろうとしていたときでした。背中の一部が急に舌しくなつて、胸に激痛が走ってきたんです。冷や汗が流れて、横になつても何をしても痛みはおさまらないし、そのうち呼吸困難になつて。それを見た友人が119番してくれました。救急隊の方がすぐに酸素吸入をしてくれて、痛みは和らいだのですが呼吸ができません。ひよつとしたら、このまま死んでしまうのではないかという不安で、怖くてたまりませんでした。そのとき、今でも忘れられないのですが、病院に向かう救急車の中で、隊員の方が処置を続けながら「大丈夫ですよ。もう少しで病院に着きますからね」と、ずっと声をかけてくださつて、それがとても心強かったです。

お世話になつたのは初めてで、ほとんど知らなかったのですが、どんな時間にもすぐに駆けつけてくださいますし、お医者さんと同じくらい頼もしくて、救急隊の方には本当に感謝しています。



頼もしい救急隊に
とても感謝しています

北柏木町在住

高嶋 栄久子 さん

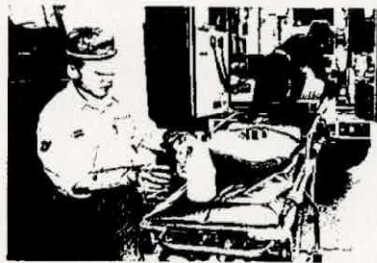
救急隊を利用した市民から一言



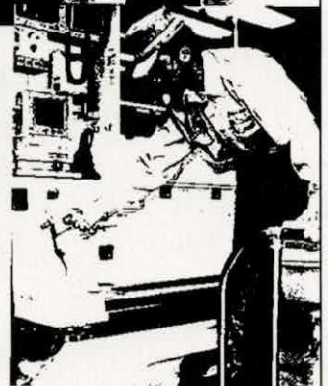
午前7時、起床ベルが鳴る。急いで床を上げ事務室に向う隊員たち。



救急も消防も、出動が重なることもある。その日の非常時予備隊も含め、隊の編成が行われる。



朝の清掃作業。ストレッチャー、車内は、入念に消毒清掃され、次の担当隊員に引き継ぎされる。



救命法をマスターしています。こうして少しずつその野は広がってはいませんが、まだまだ普及していない。学校、会社、工場などでも、どんどん勉強の機会を設けて、救命法を会得してほしいものです。自分が蘇生法を覚えて、それが広がるということは、いざ自分が倒れたとき、だれかが必ず手を貸してくれるということでもあるのですから」

説得

救急隊は、救急処置を必要とする市民と治療を行う病院の間にいる。現場や家庭に駆け付け、応急処置をして、最も近い市内病院に搬送するのが基本だ。病院の選定は、傷病の状況に応じて判断し、傷病者にけがや病気の状況をきちんと説明して、本人や家族の同意を得る。ところがこの時に、市外にかり付けの病院があつて、どうしてもそこに搬送してほしいというケースが増えている。市外病院への直接搬送は、容体の変化、搬送時間などに十分耐えられる状況にあると、隊長が判断した場合に限り行われている。

以前、こんなことがあつた。

救急隊が駆け付け、市内の病院に搬送することで、容体も含めて家族に説明した。しかし、家族は札幌のかり付けの病院でなければだめだと言つた。札幌の病院に到着するまでは少なくとも四〇分はかかる。今の体の状態では、

危険が伴うこともあると重ねて説得して、やっと市内の病院に搬送した。

救急隊の判断、家族や本人の希望。この二つの狭間で、救急隊の使命と判断をいかに伝えるか。この説得に、救急隊員が一番苦労するのだという。

夜勤明け

朝が来た。

昨夜の出動は、結局なかつた。みんな仮眠から目覚める。外は雨だ。急いで顔を洗い、車両の清掃、そして始業点検が始まる。交替の隊員たちが、ぞくぞくと集まってくる。八時四十五分、朝礼。その後、昨日の業務の引き継ぎが各担当に分かれて行われる。

だれかがこう言った。

「広報が泊まったのにな。でも、何もなかつたというのは、いいことだよ。だけど、後が怖い。経験的にさ、なかつた後に続くことが多いからね」

話は変わるが、これには後日談がある。私たちが泊まった翌々日、恵庭市内に救急車のサイレンが何度も響き渡つた。次の日、救急隊に尋ねると、その日は救助も含め、八件もの出動があつたという。残念ながら、経験的な不安は的中したのだった。

引き継ぎも終わり、夜勤をした隊員たちは、一人、また一人と家路について行つた。そしてこれから、交替した隊員たちの二十四時間が始まる。